

小学校の敷地に小も中もはやっぱい窮屈！

署名数(11月14日時点)
7,124筆

「窮屈」で「やってみなければ分からない」小中一貫校よりも「のびのび」で「試されずみ」の小学校としての建て替えを

昨日、教育委員会は小中一貫校の「基本構想の検討素案」を発表しました。多くの疑問や反対の声を意識したものがそれなりにできあがったかに見えます。しかし、「小学校用地」に「小学校」「中学校」の2つを建てるという無理が根本に出ています。

中庭(「サブグラウンド」)だけで、小学生700名が遊ぶ！？豊かな人間関係を育てる遊びが「一貫校」ではなくなってしまう！

地下1階、地上4階～5階、しかも日当たりも風通しも悪い密集した校舎配置を取ったおかげで200メートルトラックを含む運動場をなんとか確保したようです。しかし、これもいっぱいいっばいで、運動会などでは保護者席などの確保はできるでしょうか。また、サッカー用に50m×75mは枠一杯引けるようですが、中学校のサッカー用としては90m×65mは必要です。

遊びは一貫校では不必要ですか？

子どもにとって大切な遊び時間・遊び場所。特に小学生にとっては、その遊びを通して人間関係をはぐくみ、豊かに成長していきます。そのための場所としての運動場が「中庭」程度では、約700名の小学生は遊ばせん。やはり、「狭い敷地」という無理が出ています。小学生用の運動場が必要なのです。メイングラウンドに遊びに行くということも考えられますが、「休み時間は10分(中間休みなし)」「昼休みは20分」ではそこまで行けません。

お金をつぎ込むだけあって、建物などは工夫されています。しかし、小学校だけの建て替えなら3階建ての、ゆったりした校舎配置がもっと自由に考えられます。予定しているよりも少ない費用で立派な小学校ができるはずです。

「かわいそう」「ありえへん」 現中学生のナマの声
育友会9月アンケートも反対の声がほとんど それでもごり押し？

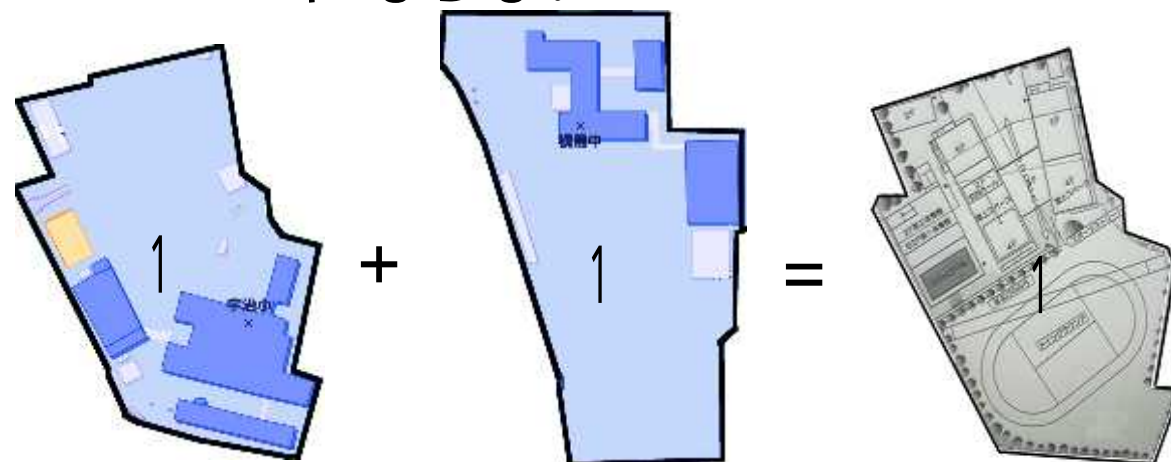
入学したての小学生にとって、15歳の中学生は残念ながら「こわい」という印象を持つのも現実です。「昼休みに中庭で小・中学生が歓談する姿」は今の中学校現場を少しでも知っている者にはちょっと想像できません。

「1000人以上の6～15歳の子どもたちが狭いところになぜ9年間も押し込められるのか」という不安が現実のものになったのが今回の素案と言えます。

小学校には小学校の、中学校には中学校の施設が必要

ある中学校(生徒数約330人)の例

1 + 1 = 2 にならない？



宇治小(21,557㎡)

槇島中(23,369㎡)

(仮)第一小中一貫校？

「小 + 中 = 小」という計算はどういう発想から出てきたのでしょうか。まさに、大久保小に消防署をくっつけて「イチゴ大福も食べてみないと分からない」というのと同じではないでしょうか。

敷地面積だけでなく、特別教室もたとえば音楽室は1 + 2 = 2という、とんでもない計算を元に基本構想が立てられています。

校舎建設の基本になる普通教室の数も「40人学級」をもとに「31」と算出。京都府が進める「30人程度学級」に対応していません。(「30人学級」の場合、普通教室は「40」必要)

1つの学校で小学生は給食、中学生はお弁当。こんなおかしなことが起きてしまうのはどうなのでしょう。

中学校にするなら...「グラウンド1.2倍」は当たり前

学校名	敷地面積	体育館	グラウンド面積
宇治小学校	21,557㎡	1つ	10,676㎡
槇島中学校	23,369㎡	2つ	14,004㎡
一貫校A案	21,557㎡	2つ	9,400㎡(メイングラウンド+サブグラウンド)
一貫校B案	21,557㎡	2つ	9,700㎡(メイングラウンド+サブグラウンド)
一貫校C案	21,557㎡	2つ	10,400㎡(メイングラウンド+交流パーク)

野球部、サッカー部が練習する「グラウンド」とは別に、テニスコート4面、バレーボールコート1面、バスケットボールコート2面、その他クラブボックス等があり、体育館も大小2つあります。放課後はこれらの施設をフル活用していますが、それでも場所が足りず、卓球部は教室で練習しています。